

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人すえひろ会		
事業所名	グループホームこうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12-9		
自己評価作成日	R3年9月29日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H23年開設以来、近隣住民や自治会長・民生委員の協力を継続的に受けて、地域に溶け込んだ事業所の運営が営まれている。桜の花見や七夕祭り、素麺流しや夕涼みでは線香花火をするなど季節にあった行事を、コロナ禍の感染対策に気をつけながらも皆さんに楽しく過ごしていただけるように取り組んでいる。衣食住、特に食に関しては、季節の料理を盛り込んだ豊富なメニューで喜ばれている。地域の方々やご家族様、行政の信頼関係を築き、理念に基づいて質の向上にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中に建つホームは、立上げ時からのあまり変動の無い職員体制のもと、コロナ感染対策を徹底するなかで外出に代わる食支援やホーム内での楽しみ事などを工夫し、事故やヒヤリハットも殆ど無い現状に職員の専門性やスキルの高さが確認され、『心豊かな暮らしを支えます』とする理念の実現に邁進するホームである。管理者を中心としてチームワークも良く、入居者視点でのケア、入居者の声に耳を傾け、待つ姿勢を持ったケアは自発性を引き出し、和やかな日常として生かされている。地域の中でのこれまでの関わりは充実し、公民館を活用した運営推進会議もホーム運営に反映され、地域の福祉会(毎月)への参加や認知症サポートセンターの受託等認知症ケア啓発の一端を担うホームである。七夕短冊に書かれた「私はあなたの愛を食べて生きています」の入居者の声に、職員と入居者の関係性が如実に表われ、お互いが労いあいながら今を生きるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念に、職員はこのままの理念で継続していくことを話し合った。年度計画に2～3回、運営会議で理念の意義を確認し、迷ったときには理念に振り返って支援している。	開設時からの理念を、日々のケアに直結させるべく、毎月の会議や年2回は全員で振り返る等ケアの原点として理念を捉えている。「わたしは、わたしなりに生きてゆきたい」の思いの実現に、『地域とともに寄り添い、心豊かな暮らしを支える』として全職員がベクトルを同じくするホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の回覧板の受け渡しや地区福祉の会で地域の民生委員との情報交換を行っている。コロナ禍で行き来はないがご近所さんが花壇の手入れをして下さったりお花を摘んできて下さったりと支援を受けている。	今出来る最大限の地域との関係を継続している。回覧板の受渡しや毎月開催される地域の福祉会(自治会長・民生委員・社協及び行政参加)の一員として地域の現状を把握している。また、開設当初から花壇の世話に訪問される近隣住民や入居者との交流こそ現在は難しい状況にあるが保育園児からの手作り作品の持ち届け等近隣から優しく見守られているホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の福祉の会で報告があった時に相談を受けている。運営推進会議の議事録で支援の方法を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、運営推進会議を開催できない時があり、サービスの実際は議事録で報告し、助言をいただいている。	コロナ感染症の状況により書面審議としたり、ホームでの開催が難しい状況には公民館での開催等工夫しながら一堂に会する機会を作っている。ホームの現状やインシデント・アクシデント、職員の研修等を報告するとともに、各委員からの情報提供等を運営に反映させている。身体拘束適正化委員会の結果もこの中で開示する体制である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる C14:E21F16C15:C21C14:E23F16C15:C21	市や包括からの情報には回答が必要なこともあるため早く対応している。必要時は電話や窓口で報告を行っている。	運営推進会議の議事録提出に向きながらの情報交換や、確認事項等必要時には電話で尋ね、地域の福祉会時での話し合い等行政や地域包括支援センター職員との顔見知りや相互協力関係が築かれている。行政から認知症サポートセンターを受託し、地域の福祉の会への参加により認知症ケアを啓発する機会としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の研修に全員参加している。拘束かわからない時には皆で話し合っており、市などに意見をもらっている。	同系列事業所3カ所による身体拘束廃止委員会の開催、各職員が資料を熟読し委員会に報告書を提出する体制や、年2回の言葉のチェックリストにより馴れ合いにならないよう意識を強化させている。入居者の外出したいとの要望や外出傾向を把握し職員の手薄時間帯の一時的な裏口の施錠や、所在確認を徹底する他、水俣市のSOSネットワーク対象者として登録し地域住民の見守り支援を受けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待に関する研修を学び報告書を提出している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会がとれていないが、年度内には資料など参照に研修を行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書に沿って説明と補足を行っている。改定時も重要事項説明書をもって説明している。わからない時には相談していただくように説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染拡大予防のため、お便りや必要時電話で意見をお聞きしている。口コミで評価を聞くことがあり取り入れるところは参考にしている。	家族には写真による活動報告や窓越し面会時に要望等を聞き取りしているが具体的な要望は少ない状況にあり、運営推進会議への参加有無や訪問のタイミング等が寄せられる等運営推進会議を問題提起の場としている。外出の制限により入居者の気持ちに寄り添い、買い物の名目に家族に受診をお願いする等家族との良好な関係が築かれている。	これまでは運営推進会議が家族の意見等を聞く機会やホームの現状を知る機会として生かされていたことは、家族の質問に表われている。12月開催の運営推進会議には家族に呼びかける意向であり、大いに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議で要望や意見を聞いている。生活している中で改善点があれば都度話し合っている。	毎月の運営会議の中での意見交換や、日々の疑問点は職員同士や、主任に相談する等職員同士が言い合える、チームワークの良い環境が築かれている。働きやすい環境を整備されていることも開設当初からの職員等殆ど変らぬ職員体制に表われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	とれる加算があればとるなど処遇改善に努めている。残業が少なくなるように勤務割表や業務分担でそれぞれの役割が勤められるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はオンラインを活用している。研修内容と日程を年間計画に入れ、少しずつ進めている。日々の現場で変わりうる事案があれば、都度話し合いを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県の地域密着型サービス協議会に加盟し、水俣・葦北地区の会議に参加し、情報交換している。水俣市の地域密着型サービス会議でも情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをとり、信頼関係を築きながら本人の訴えを傾聴している。初期は特に不安が大きいため、ゆったりした態度で接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階が一番御家族様が不安に思われているようなので、力を入れて信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望に応じ、できる範囲での支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人ができることや役割と感じていることを、日々の暮らしの中で実施できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診に付き添われるなどされている。電話での会話をされている。ご家族様の面会は、コロナ禍のためガラス越しのコミュニケーションに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めたいが、コロナ禍でできていない。地域の状態を把握して努めていきたい。	これまでは地域住民の訪問や地域と一体となった文化祭なども開催されていたが、コロナ禍の中にホーム内での生活や食を楽しもうと工夫している。ドライブがてらの家族との受診、車椅子で散歩がてらの美容室の利用、家族と馴染みの美容室へ通う入居者等家族の協力を得ながら継続している。	コロナ感染症の状況が回復してきており、これまでの関わりが出来るよう、地域の福祉会等の話し合いを生かしながら、関係性が途切れないよう支援いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が毎日楽しい気持ちで過ごせる雰囲気作り、関係作りに努めている。時には職員が間に入り、利用者同士が関係修復する力が持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には情報提供を行い、病状については病院やご家族から情報をお聞きしながら経過を見守っている。ご家族から退院後についての相談を受け、希望される施設の申し込みやの支援や情報提供を行っている。入所後の様子も機会があればお尋ねしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのようにしたいのか傾聴し、希望を伺い本人の気持ちを大切に支援を行っている。コロナ禍のため面会や外出の制限があり、寂しい思いをされているため、ドア越しでの面会や電話での対応を行っている。	日々の関わりや会話の中での思いや体調などケアマネジャーに随時挙げ、入居者の時々思いや言葉に出来ない事などに寄り添い、行動で推察しケアに反映させている。また、意思疎通や理解力の低下等もみられ、窓越し面会時家族の意向を把握しプランニングに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活について、ご家族から事前に情報収集を行っている。ご本人との会話の中で、ご家族や仕事・趣味などの話題に触れ、得意なことや好きなことを生活の中で活かせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースや体調に合わせて、手伝いや活動に参加して頂いたり、居室でゆっくり過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時や更新時に、ご本人やご家族に意向や要望を伺い計画書に反映させている。課題に関するサービス内容について、より良い支援ができるようカンファレンスを行っている。毎月のモニタリングと3カ月毎の評価を行い、ご本人の変化に応じて見直しを行っている。	毎月の運営会議の中でのケアカンファレンスや状態変化による随時のカンファレンスにより情報を共有し、3ヶ月毎のモニタリングにより継続可否を見極めている。また、変化がなくても意向の変化もあると捉え半年毎に見直している。介護認定更新や本人の状態変化等による担当者会議の開催により現状に即したプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの中での変化に注意して記録している。気づきに対して、職員間でカンファレンスを行い、ケアの方法について検討し、共有を行い計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	採血結果にて病気が判明し、主治医から紹介状を頂き、ご家族と共に受診に付き添い、ご本人やご家族の不安に寄り添うことができた。行きつけの美容室での髪染めを希望され、ご家族が同行できないため付き添い支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民の方より、切り花や夏野菜などをいただいている。保育園児の訪問やこちらからの見学はできないが園児手作りの工作の品を頂き、皆様喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医との関係は継続しつつ、必要時情報提供し適切な医療が行えるようにしている。	入居前からのかかりつけ医の継続や、家族の要望による協力医療機関への変更等希望に応じている。家族による受診や主治医の往診等適切な医療を支援しているが、コロナ禍に職員が受診を代行し家族には随時電話連絡により状況を発信している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は細やかな情報や気づきを報告し、早期受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はアセスメント表に記入し、情報提供を行っている。入院時は付き添い必要な情報を伝えている。ご家族や地域連携担当者から今後の方向性を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期どうするかご家族に確認しているが、都度状態変化があった時には、再度意向をお聞きしている。	入居によるリスク説明とともに、重度化した場合に於ける対応方針のもと、重度化・終末期について聞き取りし、家族の希望があれば最終章まで支援するとしている。入居者の状況によりあらためて意向を聞き取りしており、最期は病院へとの家族の希望によりホームで出来る限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、書面上でしか確認していないため、今後実際に実技を通して訓練していく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法令に基づき年2回以上の避難訓練を行っている。近隣の方への参加はコロナ禍の現況を踏まえ都度検討している。	年2回の避難訓練や、洪水・土砂災害に出来ることから情報を収集している。県の研修や市の速報等グループラインを活用し情報を共有している。これまでは近隣住民からの協力を得ながらの訓練も行われていた。また、年2回は防災メニューとして非常食を提供し備蓄の見直しや、防災マニュアルを見直している。	災害時の訓練として、通常の運営推進会議が開催出来る状況になれば、この会議とタイアップした災害訓練の開催を検討いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の意見や意思の尊重を心掛け傾聴し、プライドを傷つけないよう言葉使い等に気をつけ、楽しい時間を過ごしていただくよう努めている。	入居者を中心に置き、何が良いだろうか、どんなことを考えておられるだろうか等ゆっくり話を聞く事を重要視し、待つ介護に徹している。毎月の運営会議の議題に職業的倫理（倫理・法令遵守・コンプライアンス等）を挙げた勉強会や、個人情報保護法等も研修している。オムツの使用も他者に見られないよう気をつける等入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制したり、急がせたりすることなく自己の決定を尊重し穏やかに日常生活を過ごしていただけるよう声掛けや確認を行いながら希望に沿った支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人が自分に意思で自由に行動することができるよう、希望に沿った支援を行い、過ごしにくさを感じることがないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を取り入れ、自分らしい着こなしでいられるよう配慮し、ゆっくり身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人にあった食事形態や見た目などの工夫を行い、楽しく食事をとって頂けるよう努めている。また、自主的に利用者同士や職員など一緒になって楽しく準備や片付けなどを行っている。	ホームでの手作り料理を継続し、入居者もリビングでもやしの根切り等出来ることに楽しみながら手伝われている。入居者を視点にした献立は食卓を賑わせ、入居者と一緒同じテーブルで食事をすることで介助や食の進み具合を確認している。今年は特に外に出る事が制限され、食の工夫(素麺流しやかき氷、うなぎ、敬老の日には豪華弁当等)で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのいい食事をとっていただけるよう、法人栄養士の献立に沿って食事の提供を行い、1日分の量を摂取して頂けるよう努めている。また食事量、水分量などの記録をとり偏りがないか確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアの声掛けや介助を行い口腔の清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人でトイレに行ける方には、食事前等声掛けを行っている。介助が必要な方も、食前・食後などのトイレ誘導を行っている。	職員は食前・食後にトイレの声かけを行っているが、自立された方が多く、トイレ使用後は職員が便器等を掃除している。リハビリパンツにパット使用等もあり個々に応じ排泄用品を使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認など行い、水分補給を行っている。便秘の方には、医師に相談し、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人様の希望に応じ日にちの変更等を行っている。断られる場合にはスタッフを変えるなど工夫を行っている。	週2回を中心に入浴を支援しているが、汚染時には随時の入浴により清潔保持に努めている。入浴を拒否される入居者には、毎日の声掛け、体重測定として勧める等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠がある方に対し、声掛けを行い休息の時間をもうけている。居間にて歌のDVDや時代劇など見たい番組を見てもらい、安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテの後ろに薬情を閉じ、いつでも見れるようにしている。内服変更時には申し送りを行い情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやもやしのひげとりなど、その人その人のできることをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為外出できていない状態である。	家族との受診はあるものの、今年度は外出をひかえ、庭先での線香花火、夕涼みやかき氷などで夏の終わりを楽しんでいる。入居者に出かけたい場所を尋ねても、『ここが良い』との返事が多く、外出の意欲が低下傾向にある。	コロナ禍で外出を控える状況に、外出する意欲が薄れてくると思われる。外出に代わる工夫は随所に表われており、今後も外出したとの気持ちを引き出すような声掛け等に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できなくても、家族の希望や持つことで安心される人には、紛失のリスクを伝え所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には電話を掛けている。手紙のやり取りはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は音が大きくなりすぎないようにしている。食堂や居間や玄関には花を飾り、廊下との空間には季節を感じられる物を手作りし、殺風景にならない様季節の壁作りをしている。不快にならない様、室温や湿度の調整をしている。	玄関先には手作りの小物や保育園の作品が彩りとして生かされ、季節毎に壁面を飾り付けし、草花を生ける等ゆったりとした共有空間を作り出している。温度管理の徹底とともに、掃除の行き届いた空住環である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのソファの配置を工夫している。自然と気の合う入居者が集まる時もある。庭を見るために椅子を配置したり、居場所のバランスに配慮している。食堂の席替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に家族に相談し、本人の居心地の良いように家族が配置されている。また、本人の好みの物を配置されたり、気づいた時に使いやすいように配置されている。身体状況によっては家具などの配置換えを行っている。	入居時にベッド・クロゼット・洗面台が備わっていることの説明と、こだわりのある物や入居者が安心されるものの必要性を説明している。テレビや人形、神棚等が持ち込まれ、入居者が降りやすい方向へのベッド配置等個々の身体状況を把握したレイアウトとしている。担当職員により衣類管理や整理整頓された居心地の良い居室である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるよう、紙に書くなどして目印にしている。廊下や居室、食堂は自由に安全に行動できるよう環境整備を行っている。		